

ユーザー紹介

畑端博志さん

今回のユーザー紹介は、北海道日高管内新ひだか町（旧三石町）で肉牛牧場を経営されている畑端博志（はたばた ひろゆき）さんです。

牧場は、和牛の一貫経営（一部素牛導入）で現在、繁殖牛 55 頭（うち受卵牛 15 頭）飼養されています。牧草は全て自給しており、稲わらは地元産を使用しています。



後継者の畑端俊樹さん

肥育出荷したお肉は、北海道日高のブランド牛、『みついし牛』として流通されています。みついし牛とは、厳選された統一の飼料と生産管理の下で育てられた肉質等級 3 以上のものです。現在、えりも町、浦河町、新ひだか町（三石）、新冠町の牧場で生産されており、年間出荷頭数は 600 頭を超え、そのほとんどが東京食肉市場に出荷されています。



畑端さんの目標は・・・
ずばり『A-5率100%達成!』です！

ちなみに現在のA5率は80%、A4以上は97%になります。去勢・メス平均枝重は500kgを超えています。

現在の驚異的な成績をみると、目標を達成する日は近いですね！！

畑端さんが力を入れて取り組まれていることは、『ストレスの緩和』と『安定した食い込み』、そして『受精卵移植の活用』です。

まず、『ストレスの緩和』の取り組みとして、牛が快適に過ごせるような環境づくりを徹底されています。きれいな水を十分に飲めているか、美味しい餌を十分に食べられているか、牛床は心地良いか、吸い込む空気はきれいかなど、日々細かい気配りをされています。



広くきれいな水飲み場

その結果、通常では食べ込みが落ちてしまう季節（特に夏場の暑い時期）でも食べ込みが落ちづらくなり、『安定した食べ込み』に繋がっています。

また、『受精卵移植の活用』を積極的に行い牛の改良にも力を入れておられます。自家産の育種価が高い繁殖牛から採卵した受精卵を、結果が伴わなかった繁殖牛や8産以上の繁殖牛などに移植しています。

牧場では、代表の博志さんが長年取り組まれてきた好成績を後継者の俊樹さんが受け継ぎつつ、新しいことにもどんどん挑戦して更なる飛躍を遂げられておられます！！



さて、畑端さんは、アースジェネターを給与して2年が経過しました。始めた理由は、さらに食べ込みを安定させたいとの思いからでした。

アースジェネターは、分娩前後の母牛、仔牛～肥育出荷まで給与されています。

変化したことは、①夏場の食べ込み量が落ちなくなった、②臭気が軽減した、③堆肥の発酵が良くなり臭気も減った、などといったことです。

最後に今後の展望をお伺いしました。少しずつ頭数を増やしつつ、さらに個体のバラツキを安定させたいとのことでした。

そして、東京食肉市場で枝肉をよく見る機会があり、目標としている鹿児島県の肥育農家さんの方々に是非、勝ちたいとのことでした！新しいことに挑戦され、常に上を目指し続ける畑端さん。今後ますますのご活躍を期待しています！！

百合茂—安福久—平茂勝 27.8 か月齢 自家産
去 A-5 BMS12 枝重 565 kg ロース 110 ばら 11.2
H26.6.20 第 39 回名人会枝肉研究会最優秀賞！！

